

潮汕方言の「引っ搔く」について

村上之伸

はじめに

潮汕方言⁽¹⁾は広東東北部で話される閩南語⁽²⁾の一種で、福建南部の閩南語と共通する語彙は多い。しかし中には同じ語形でありながら、意味が異なるものがある。本稿では広東東北部と福建南部で意味が異なる単音節動詞 khiu3⁽³⁾について、歴史的な観点から分析を試みたい。

1. khiu3の語義

単音節動詞 khiu3は潮汕方言では「引っ搔く」という意味で用いられている。

(潮汕) 揭陽 1. 用指甲撓：

khiu3 no4e6 tsu4 boi4 tsioN4 lao5

* 抓撓幾下就不癢啦。

(ちょっとかいたら痒くなくなった)⁽⁴⁾

2. 用手指在物體中劃過：

thau2mo2 tsiam3 siu1ho3 tsu4 kai1 khiu3 dzi2 ne6

* 頭髮才梳正好就把它抓亂了。

(髪が整ったばかりなのにかき乱した)

語義を二つ立てているのは、この辞書(陳恩泉(2010))が普通話を基準として編んでいるためである。1には“搔、抓撓”を、2には“抓”をそれぞれ当てて違いを説明しているが、khiu3からみれば分ける必要はなく、「引っ搔く」だけで済む。もう一つ、東山の例もみてみる。

(福建) 東山 to scratch. 五本の指の爪でガリガリひっかくこと：

i1 e2 bin6 khəʔ8 laŋ2 khiu3 a0 tsit8liŋ6 tsit8liŋ6.

(かれの顔はひっかかれて傷だらけだ)

中嶋幹起(1977)93頁

東山は福建内で唯一、khiu3が「引っ搔く」という意味になった地点である。ここは広東東北部に近い島であり、潮汕方言の影響を受けやすいところなので

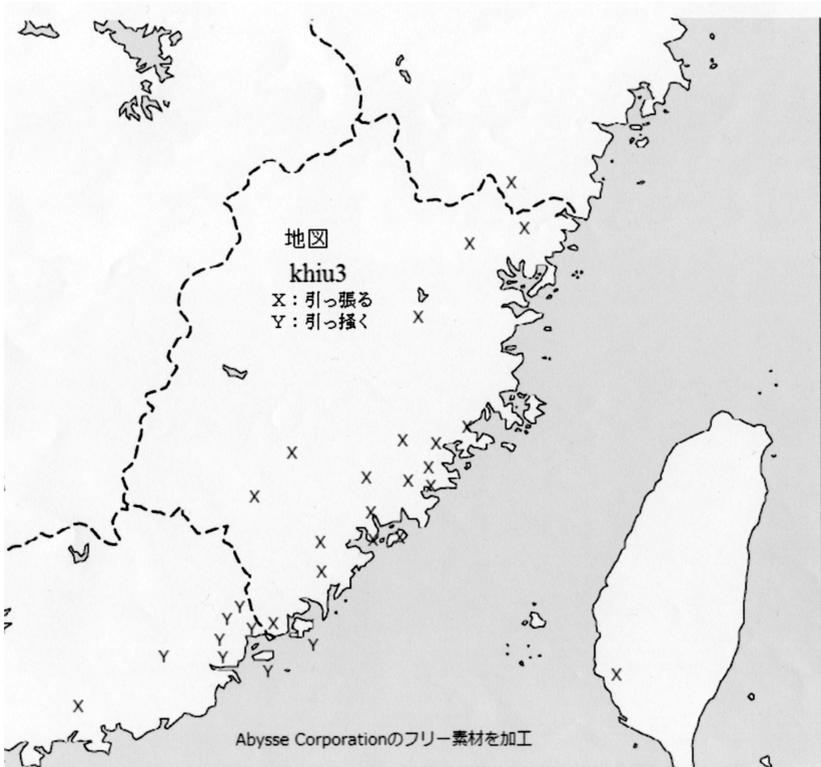
あるが、それ以外の閩南語ではこの単音節動詞 *khiu3* が「引っ張る」という意味になる⁽⁵⁾。

- | | |
|---------------------|----------------|
| (福建)廈門：拉, 扯. | 周長楫(2006)221 頁 |
| (台湾)：拉, 揪. | 張裕宏(2009)145 頁 |
| (海陸)海豊：緊緊地抓, 抓住并拉住. | 羅志海(2000)134 頁 |

「引っ掻く」がこすってする動作なのに対し、「引っ張る」はつかんでする動作である。つまり、賓語に “*thau2mo2** 頭髮” があれば「髪を強く引っ張る」という意味に、また “*soh7** 繩子” がつけば、「綱引きをする」という意味になる。

この語義をもつのは閩南語だけではない。莆仙語や一部の閩東語でも *khiu3* が「引っ張る」の意味になるので、実際の分布は地図の通りかなり広い。

- | | |
|------------------|--------------------|
| (莆仙)莆田：拉扯. | 蔡國妹(2016)35 頁 |
| (閩東)柘榮：～緊(* 拉緊). | 『柘榮縣誌』(1995)704 頁 |
| (閩東)古田大橋：揪. | 秋谷裕幸・陳澤平(2012)54 頁 |



2. 「引っ張る」から「引っ掻く」への変化

このように「引っ掻く」と「引っ張る」、指示対象が異なる同一語形 khiu3 が地理的に相補分布を示しているのであるが、このような分布を示すようになったのは実はそんなに古いことではない。宣教師 A. M. Fielde の汕頭語字典“Pronouncing and Defining Dictionary of the Swatow dialect (汕頭方言注音釋義字典) (1883)”では khiu3 が「引っ張る」という意味で出てくる。

揪 khiu3 : to grasp; to clutch; to pinch up.

さらにその後には用例があり、これらもすべて「引っ張る」で意味が通ずる。

- 聚 tsu6 “gather up in a lump by grasping.”
- 緊 kin3 “clutch tightly.”
- 他的辮 i1 kai2 piN1 “clutch his queue.”
- 他的胸前 i1 kai2 heŋ1tsoiN2 “clutched him on his chest.”
- 緊緊不肯放 kin3kin3 m6 kheŋ3 paŋ5 “clutched him tightly and would not let go.”
- 到伊血流 kau5 i1 hue?7 lau2 “nabbed him so as to make the blood start out.”

このことから、khiu3 は潮汕方言でも他の閩南語と同様に元来は「引っ張る」の意味であったが、約 100 年前に「引っ掻く」に変化したと考えることができる⁽⁶⁾。

3. 「引っ掻く」動作を表す語

閩南語には「引っ掻く」という動作を表す語が他にも存在する。例えば、廈門には以下のような語がある。

(福建)廈門① pe2 抓癢.

② niau5/liau5 用指甲抓撓東西.

③ khaŋ5 用指甲等扒, 挖, 掘. 周長楫(2006)

①は「痒いところを掻く」動作に限定され、「猫が爪を立てて強く引っ掻く」②のような動作にはあまり適さないようである。また③は「爪先で引っ掻いて不要なものを落としたり剥がしたりする」動作に用いられる語で、①や②とも異なる。ただ、いずれも広い意味で言えば「引っ掻く」動作になるであろう。これらに対応する語は他の閩南語にもある。

(台湾) ① pe2 搔癢.

② dziau5 抓(癢).

- ③ khang5 (用指甲) 搨. 張裕宏(2009)
 (潮汕) 揭陽① pe2 用手指輕抓.
 ② dziau7⁽⁷⁾ 人用指甲或帶齒的東西或動物用爪在物體上劃過.
 ③ khaŋ5 搨, 用手指或指甲使痂裂開或脫落. 陳恩泉(2010)
 (海陸) 海豐① pe2 用手搔; 抓; 撓.
 ② dziau5 人用指甲或動物用爪在物體上劃過.
 ③ khang5 用手指甲等挖; 抓痂. 羅志海(2000)

つまりこの3つの語は「引っ搔く」を意味する閩南語共通の語とみなすことができるだろう。歴史的に言えば、khiu3 が潮汕において「引っ搔く」を表すようになる前から、閩南語を話す地域に広く分布していた可能性がある。

さて、潮汕方言以外の閩南語にはもう一つ khiat8 という「引っ搔く」動作を表す語が存在する。以下でその用法をみてみよう。

例えば、台湾や海陸では次のように単独で動詞となる。

- (台湾) khiat8 (用爪子) 抓. 張裕宏(2009)264 頁
 (海陸) 海豐 khiak8⁽⁸⁾ 撓;(用手指)輕輕地抓 :- 頭毛, 腳在 -(* 撓腳).
 羅志海(2000)329 頁

両者の記載には爪で搔くか指で搔くかという相違があるが、次の歇後語での使い方をみれば、元来それほどの違いはなかったことがわかる。

- (台湾) hoe2siuN6thau2 khiat8 bo2 sat7 / 和尚頭 khiat8 無蝨 /
 陳修・陳文晶(1991)669 頁
 (坊主頭を搔いてもシラミは出ない: 貧乏人から金を搾り取れない)
 (海陸) 海豐 hoe2sioN6thau2 khiak8 sat7bo2 / 和尚頭 khiat8 蝨母 /
 魏偉新・謝立群(2016)160 頁
 (坊主頭からシラミを搔きだす: 不必要なことをする)

台湾にはもう少し古い資料を当たることができるので、その中から『台日大辭典』の例をみてみる。ここには家畜の搔く例も挙がっている。

- (台湾) khiat8 馬などが土を搔く。引っ搔く。
 ti1 khiat8 toe2/ 豬 - 蹄 / (豚が蹄で土を掘る。)
 bin6 hɔ6 laŋ2 khiat8 tsit8e0/ 面被人 - 一下 / (顔を引
 っ搔かれた。) 小川尚義(1931)291 頁

動詞の他、khiak8 は硬いものを引っ搔いた時に出る音を表す。例えば台湾では

- (台湾) khiat8 爪子、指甲抓硬物的聲音, 例如貓狗抓門; 迅速地抓一下

的樣子.

張裕宏(2009)264 頁

また、『日台大辞典』(小川尚義(1907))の見出し語「ガリガリト」にある次のフレーズのように、XX 型の擬声語となることもある。

「一搔ク」 pe2 kah7 khiat8 khiat8 hau3

さらに、この khiak8 は XXA 型動詞の X にも用いられる。

(福建) 漳州 khiat8 khiat8 pe2

=khiat8 khiat8 dziau5

1 抓癢抓得很急. 2 比喻因為某事急得要命. 陳正統(2007)361 頁

(福建) 泉州 khiat8 khiat8 khang5

急得坐立不安.

周長楫(2006)606 頁

(海陸) 海豐 khiak8 khiak8 peh7

因身體傷痛、不適或心情不好而坐立不安. 魏偉新(2010)346 頁

A の pe2(peh7)、dziau5、khang5 はいずれも上述した「引っ搔く」動作である。この「引っ搔く」動作が XXA 型動詞ではカリカリと引っ搔く様子になり、さらに比喩的に落ち着いていられない様子を表すようにもなったのである⁽⁹⁾。

馬重奇(1995)には漳州語に限定してはいるが、XXA 型動詞について言及している箇所がある。そこでは XX の部分を動詞、形容詞、名詞、擬声語の四つの成分に分類できるとし、さらに次のように述べている。

附加成分 XX, 或與整個 XXA 式動詞表義特點相關, 如“矚矚看”中的“矚矚”有“眨眨眼”的意思, “詬詬罵”中的“詬詬”有“辱罵”的意思, “蹕蹕跳”中的“蹕蹕”有“跳躍”的意思; 或並不表甚麼實際意義, 而只是起表音作用, 如“轆轆掣”中的“轆轆”原為“形容車輪聲”, “啞啞掣”中的“啞啞”原為“形容砲彈、槍彈等在空中很快飛過的聲音”。

つまり、XX の部分に置かれる成分は XXA 型動詞全体がもつ意味と関連のあるものと具体的な意味をもたず音のみを表すもののどちらかであると述べている。

khiat8 の場合は擬声語としての働きだけでなく、「引っ搔く」動作も表すことができるので、どちらの性質ももっている。日本語ではガリガリ(している)或はカリカリ(している)というような意味になるであろう。

福建ではこの khiat8 が XXA 型動詞の XX の部分にしか現れないが、A に khiat8 と意味の近い動詞が使われていること、そして khiat8 が台湾や海陸では動詞や擬声語として使われていることから、福建でも以前は動詞や擬声語の意味をもっていたと考えられる。

地域別にまとめると以下ようになる。

khiat8	引っ搔く	重疊
台湾	有	有
福建	(有)	有
潮汕	無	無
海陸	有	有

潮汕には「引っ搔く」を意味する khiat8 そのものは存在しないが、これに相当するものとして khiu3 がある。つまり閩南語においては「引っ搔く」という意味の khiat8 と khiu3 が相補的に分布しているのである。では khiat8 と khiu3 のどちらが「引っ搔く」を表す閩南語の古い語形なのであろうか。もし khiu3 が古い、すなわち潮汕以外の閩南語において khiu3 が khiat8 に変わったと考えると、「引っ張る」を表す語形 khiu3 もあるため、khiu3 が「引っ張る」と「引っ搔く」の二つの意味を持っていたことになる。そうすると、前述した潮汕における khiu3 の「引っ張る」から「引っ搔く」へ変化を説明するのが難しくなる。そこで「引っ搔く」を表す khiat8 が潮汕においても台湾や海陸の閩南語と同様に以前は存在していて、それが khiu3 に変化したと考えてみたい。つまり何かの理由で khiu3 に変わることで、それまで「引っ張る」動作を表していた khiu3 が消滅したと考えるのである。

4. 「引っ搔く」と「げんこつで殴る」

では、どういうわけで、潮汕方言において khiat8 が khiu3 に変わったか。

ここにはもう一つ「げんこつで殴る」という動詞が関わってくる。次のように福建地区（厦門、漳州）では khiat8、その他の閩南語では khiak8 となる。

(福建) 厦門 khiat8：本指用手指關節狠狠敲打(腦袋), 今泛指狠狠地打。

周長楫(2006)606 頁

(福建) 漳州 khiak8：栗暴, 用手指的關節敲打頭部。 陳正統(2007)361 頁

(台湾) khiak8：五指を屈めて指の節で打つ。 小川尚義(1931)250 頁

(台湾) khiak8：(用手指關節或細棍子) 敲, 例如打頭。

張裕宏(2009)263 頁

(潮汕) 汕頭 khiak8：手指屈曲，以指節擊頭。 施其生(1997)194 頁

(海陸) 海豐 khiak8：食指至第五指的第一個指節彎曲，靠近或貼近第三個指節，然用第三個指節背擊(人的頭部)。 羅志海(2000)329 頁

khiak8 はまた擬声語として、石や木など硬い物をたたいた時に出る音を表す。

(福建) 崇武 khiak8 : 敲擊聲. 陳國強・蔡永哲(1990)40 頁

(福建) 南安 khiak8 : 石、木擊聲. 李如龍(2001)17 頁

(福建) 廈門 khiak8 : 木、石相擊之聲.
『福建省志・方言志』(1998)111 頁

(台湾) khiak8 : 硬而短的敲擊聲. 張裕宏(2009)263 頁

(潮汕) 揭陽 khiak8 : 打石的聲音. 蔡俊明(1991)254 頁

(福建) 廈門 khiak8 khiak8 hau3* 吼 : sound of beating a boy.
Carstairs Douglas(1873)271 頁

(潮汕) 潮陽 khiak8 khiak8 kio5* 叫 : 用手指彈實心兒蘿蔔發出的聲音 ; 打小鼓聲. 張盛裕(2006)173 頁

「げんこつで殴る」の khiak8 もこの擬声語から生じたものだと考えられる⁽¹⁰⁾。

「引っ搔く」と「げんこつで殴る」の語形を地域ごとにまとめたのが以下の表である。

	引っ搔く	げんこつで殴る
台湾	khiat8	khiak8
福建	(khiat8)	khiat8
潮汕	khiu3	khiak8
海陸	khiak8	khiak8

今日、粵東の多くの閩南語では -n/-t が -ŋ/-k に合流しているが⁽¹¹⁾、19 世紀頃には福建や台湾の閩南語と同様に -m, -n, -ŋ / -p, -t, -k の韻尾が存在していたことが、A. M. Fielde(1883)のような宣教師の残した方言資料から明らかになっている。もしそのような音系であれば、潮汕の「引っ搔く」と「げんこつで殴る」についても以前は台湾の khiat8 と khiak8 のように韻尾に区別があったのではないだろうか。その後、韻尾 -t が -k に合流する過程で、同音衝突(「げんこつで殴る」動作を表していた khiak8 に新しく「引っ搔く」という意味が加わること)を回避しようとした。特に khiat8 と khiak8 はいずれも擬声語としての働きをもつ有縁語である⁽¹²⁾。感覚的にも同音になることには抵抗があったのだと思われる。

実際には韻尾 -t が -k に合流するという音韻変化を起こす中、一部の潮汕方言⁽¹³⁾で khiat8 が khiak8 になることを避け、khiu3 に入り込んだと考えたい。家を出なくてはならなくなった「引っ搔く」が「げんこつで殴る」のところに

行くのをやめて「引っ張る」に向かったのである。khiu3とは意味上で近かっただけでなく、音声上の共通性もあり、相性がよかった。これによりkhiu3から「引っ張る」の意味が消滅してしまう⁽¹⁴⁾。そして指示対象が「引っ張る」から「引っ掻く」へ転移したkhiu3は周囲に広がっていき、今日の状態になったのではないか。

隣接する海陸では、一部の中古音韻尾 -n/-t がそのまま保存されていることから推測すると、合流時期が潮汕より少し遅れた可能性があり、依然として同音状態が続いている。回避方法は二音節語を作るなど他にもいろいろ考えられるが、この辺りのことは今後さらに調べていきたいと思う。

まとめ

潮汕方言における変化をまとめると以下のようになる。

khiu3「引っ張る」→khiu3「引っ張る」→khiu3「引っ掻く」

<指示対象の転移>

khiak8「殴る」→khiak8「殴る・引っ掻く」→khiak8「殴る」

<音韻変化で同音衝突>

khiat8「引っ掻く」↗

(注)

- (1) 具体的には潮州、汕頭、揭陽で話されている閩南語のことである。汕尾(海豊、陸豊も含む)で話されている閩南語を含めることもあるが、本稿ではこれを区別して海陸方言とよぶ。
- (2) 本稿では閩南語を福建、台湾、潮汕、海陸の四つの地域に分けて説明していく。
- (3) 数字は声調で、1, 3, 5, 7はそれぞれ陰平、陰上、陰去、陰入、2, 4, 6, 8はそれぞれ陽平、陽上、陽去、陽入を表す。hは有気音、Nは鼻母音を表す。
- (4) 声調は原調。*の後は普通話。括弧内はその訳。
- (5) 福建や台湾には「引っ張る」という意味でgiu3という言い方もある。潮汕や海陸にはないので、本稿では取り上げない。
- (6) シンガポールの潮汕語でもkhiu3が“引っ張る”動作を表す(緊拉, 揪: 吳英俊(2017) 108頁)。潮汕人のシンガポールへの移住が19世紀前半から始まるので、これを古い潮汕語とみなすこともできるが、福建南部からの移住者も多いので、その影響とすることもできる。
- (7) 施其生(1997)では声門閉鎖音?のないdziau5“用爪抓”(144頁)となる。
- (8) 海陸ではt韻尾がk韻尾に合流している。
- (9) この他、閩東語ではあるが、福州にもこれに類する語が存在する。

福州：ŋiah8 ŋiah8 suoŋ6 被蚊蟲叮咬後奇癢難耐的感覺。(蚊に刺された後の耐え難い痒み) 馮愛珍(1998)399頁。suoŋ6は福州で“皮膚或黏膜受到輕微刺激時引起的想癢的感覺(皮膚や粘膜に微かな刺激があった時に起きる搔きたくするような感覚)”を表すという。

(10) 福建の場合は「げんこつで殴る」の khiat8が擬声語 khiak8と同音にならない。「げんこつで殴る」が khiat8なのは「引っ搔く」の khiat8が単独で意味を表せなくなったことと関係していると考えている。詳細は別稿で論じたい。

(11) 吳芳(2013)が詳しい。

(12) 有縁語については岩田礼(1984)を参照。

(13) 潮汕の方言では一部合流しても同音衝突を起こさないことがある。例えば、潮州市内では汕頭や揭陽と異なり、iatとiakの韻尾がkに合流しても、韻母全体ではそれぞれiekとiakとなり、主母音で区別している。

(14) これは潮汕地区において「引っ張る」動作を表現できなくなったことを意味しているわけではない。例えば tui3 や khim3 は A. M. Fielde(1883)の時代から「引っ張る」という意味をもっている。

tui3 : to grasp and pull upward. To hold to; to pull by holding.

khim3 : to clutch; to grasp by the collar; to seize. A. M. Fielde (1883)

tui3 : 用力扯(使長或直).

khim3 : 緊緊地抓; 抓住並扯動. 陳恩泉(2010)

<参考文献>

A. M. Fielde(1883)“Pronouncing and Defining Dictionary of the Swatow dialect.”

(<https://archive.org/details/pronouncingdefin00fielrich>)

蔡國妹(2016)『莆仙方言研究』廈門大學出版社

蔡俊明(1991)『潮汕方言詞彙』香港中文大學

Carstairs Douglas(1873)“Chinese English Dictionary of Vernacular or Spoken Language of Amoy, with principal variations of Chang-chew and Chin-chew dialects.”

陳恩泉(2010)『潮・普雙言語辭典』國際文化出版公司

陳國強・蔡永哲(1990)『崇武人類學調查』福建教育出版社

陳修・陳文晶(1991)『台灣話大詞典』遠流出版公司

陳正統(2007)『閩南話漳腔辭典』中華書局

馮愛珍(1998)『福州方言詞典』江蘇教育出版社

李如龍(2001)『福建縣市方言誌12種』福建教育出版社

羅志海(2000)『海豐方言辭典』新疆人民出版社

馬重奇(1995)「漳州方言重疊式動詞研究」『語言研究』第1期(馬重奇(2015)『漢語音韻與方言史論稿』729-740頁,人民出版社)

秋谷裕幸・陳澤平(2012)『閩東區古田方言研究』福建人民出版社

施其生(1997)『汕頭話音檔』上海教育出版社
魏偉新(2010)『海豐話方言詞典』天馬出版社
魏偉新・謝立群(2016)『海豐俗語諺語歇後語詞典(第二版)』廣東人民出版社
吳芳(2013)『粵東閩語前後鼻音韻尾類型研究』暨南大學出版社
吳英俊(2017)『潮汕口語集積』友誼企業有限公司
小川尚義(1907)『日台大辭典』
小川尚義(1931)『台日大辭典』
岩田礼(1984)「方言境界地域に於ける新語形の発生とその成因—中国・江蘇省東北部地域
に於ける言語地理学の試み(Ⅰ)」『アジア・アフリカ言語文化研究 28』
張盛裕(2006)「潮陽方言的象聲詞」『中國方言學報 1』(『潮陽方言研究』(2016)社会科学
出版社)
張裕宏(2009)『TJ台語白話小辭典』亞細亞國際傳播社
中嶋幹起(1977)『閩語東山島方言基礎語彙集』アジア・アフリカ言語文化研究所
周長楫(2006)『閩南方言大辭典』福建人民出版社
『福建省志・方言志』(1998)方志出版社
『柘榮縣誌』(1995)中華書局

(流通經濟大学)